“梅毒”あなたは大丈夫？

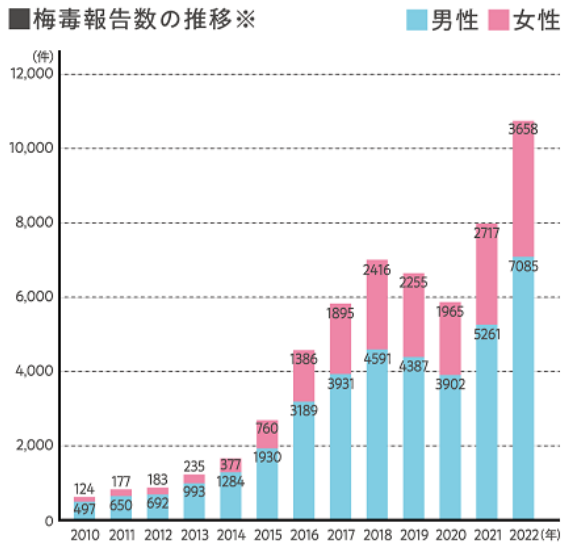
すでに報道されている通り、全国で梅毒の感染が拡大しています。梅毒は感染に気付きにくいため、治療の遅れや感染拡大につながりやすく、放置すると内臓に重篤な障害を起こします。
しかし、梅毒は早期に治療をすれば、注射薬や内服薬で治すことができる病気です。
あなたと大切なパートナーを守るため、正しい知識を持ち、予防や早期発見に努めましょう。

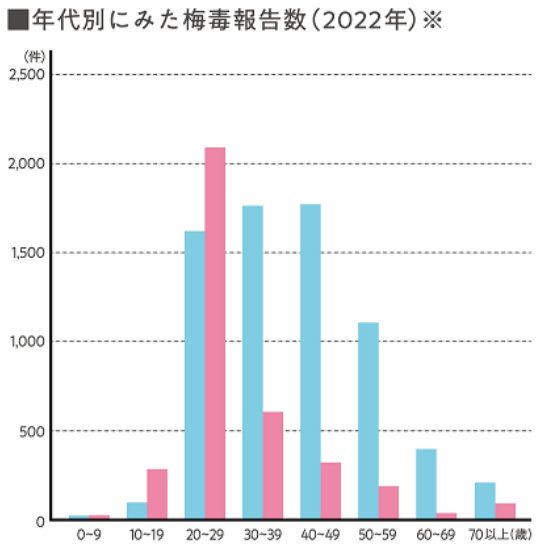
梅毒（ばいどく）とは？

梅毒とは、梅毒トレポネーマという病原体により引き起こされる感染症で、症状が現れたり消えたりを繰り返しながら徐々に全身を侵していきます。主にセックスなどの性的な接触により、口や性器などの粘膜や皮膚から感染します。

梅毒の報告状況

下のグラフは、梅毒の発生状況について表したグラフです。左は 12 年間の梅毒発生報告数の推移、右は年代別の梅毒報告数です※1。左の年間推移では 2016 年頃から急激に増加して、2022 年で感染者数が最も増加しています。右の年代別では、男性が 20 代から 50 代、女性は 20 代が感染者数の大半を占めています。





※2021 年は、第 1～52 週 2022 年 10 月 8 日時点集計値（暫定値）、2022 年は第 1～44 週 2022 年 11 月 9 日時点の集計値の報告を対象。

※1：厚労省ＨＰ：梅毒
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/syphilis.html

梅毒の症状は？

第1期	感染して 3 週間前後で感染が起きた局所にしこりや潰瘍ができます。痛みやかゆみはほとんどなく、症状が数週間で消えてしまうことがあります。
第2期	感染から 3 カ月ほど経つと全身に赤い発疹が現れます。発疹がバラの花に似ていることから、バラ疹と言われています。またこの症状も消えてしまうことがあります。
第3期	感染から約 3 年後経つと、ゴム腫と呼ばれる軟らかい腫瘍が皮膚や筋肉、骨などにできます。また、病状が心臓や脳、血管など全身に広がり、命に関わる場合もあります。

梅毒の予防方法

梅毒（やその他の性感染症）の予防には、次の一般的な対策が役立ちます。

- コンドームを常に正しく使用する
- セックスパートナーを頻繁に変える、他のセックスパートナーがいる相手と性的接触するといった安全でない行為を避ける
- 感染症の迅速な診断と治療（感染の拡大を防ぐため）

梅毒かもと思ったら

梅毒かもしれないと思ったら、皮膚科、感染症専門の科、泌尿器科、産婦人科等を受診しましょう。一部の保健所では HIV の検査と一緒に梅毒検査（原則無料）をしているところがありますが、保健所は検査のみのため、治療が必要な場合は病院を受診する必要があります。

妊娠中の梅毒感染は特に危険です。母親だけでなく、胎盤を通して胎児にも感染し、死産や早産の危険性があります。あなたとあなたのパートナーを守る行動をとりましょう。

作成：保健師　　小野
文責：常務理事　大西明彦